

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：82512

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01674

研究課題名（和文）企業の異質性を考慮したグローバル・バリューチェーン分析 米中貿易摩擦の多面的評価

研究課題名（英文）The impact of US-China Trade Conflict on Global Value Chains: Considering Heterogeneous Firms

研究代表者

孟 渤（Meng, Bo）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター・主任調査研究員

研究者番号：70450541

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：1）米中貿易戦の背後にある地政学的ロジックをグローバルバリューチェーン（GVC）の観点から明らかにし、成果を和文誌にて公表した。2）米中貿易戦の潜在的影響をGVCベースのCGEモデルやネットワークツールを用いて可視化し、成果はWTOが刊行したGVC報告書2021、2023年版に引用された。3）GVC上の米中間の雇用機会のtransfer及びそのグラビティ的決定要因分析、米中両国のGVC上の環境責任に関する分析も行い、成果はCell姉妹紙One Earth等に掲載された。4）企業の異質性情報を持つ中国省間産業連関表も作成し、NatureのScientific Data誌に掲載された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：1）GVCに内包される価値の創造・移転・分配を重視した新型CGEモデルを開発し、米中貿易戦の影響をネットワークレベルでの可視化を可能にした。2）地場企業と多国籍企業のコントロールパワーの相違を明示的にGVC分析フレームワークに導入することで、付加価値貿易概念のアップグレード版である要素所得貿易概念の提示ができた。社会的意義：1）米中貿易戦の直接的な当事者のみではなく、日本等のような第三国の問題意識をも踏まえた形での政策指針や国際ガバナンスの在り方を考察した。2）成果はWTO等が刊行したGVC報告書に引用されたほか、世銀・IMF・国連への宣伝活動も行い、広くFeedbackを受けた。

研究成果の概要（英文）：1) We investigated the underlying geopolitical logic driving the U.S.-China trade war, focusing on Global Value Chains (GVCs). Our findings were published in a Japanese journal. 2) We employed GVC-based CGE models and network tools to analyze and visualize the potential effects of the U.S.-China trade war. Our results were cited in the 2021 and 2023 GVC Development Report published by WTO. 3) We examined employment opportunities within the U.S.-China GVCs, considering gravity-based determinants. Additionally, we analyzed environmental responsibilities along GVCs with a focus on the US and China explicitly considering the difference of production functions between local firms and multinationals. Our research outcomes were published in journals such as One Earth, Ecological Economics, etc..4) We developed large scale time series input-output tables for Chinese provinces, incorporating information on firm heterogeneity. These tables were published in Nature's Scientific Data.

研究分野：グローバルバリューチェーン、国際貿易、環境経済学

キーワード：グローバルバリューチェーン 付加価値 米中貿易摩擦 多国籍企業 生産ネットワーク 環境産業連関分析 要素所得貿易

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

昨今の米中貿易摩擦の影響に関する GVC の視点からの実証研究は非常に少ないとは言え、徐々に増えつつある(例えば Walmsley and Minor 2018; Itakura 2019 等)。その背景として、21 世紀型国際貿易の最も重要な特徴である GVC の急速な進展が、従来の国際貿易論の説明力を低下させたことが指摘できる(Baldwin 2019)。GVC という用語は、本来社会学、特に経営学・産業組織論・契約理論の分野で用いられ、個別企業の活動に着目しながら価値の国際配分をめぐる総合的研究を行った Gereffi et al. (2005) 等により普及・定着してきた。最近では貿易論の分野でも GVC という言葉が高い頻度で使われ、経営学・産業組織論・契約理論と貿易論をつなぐ中核的な概念となっている。事実、「新貿易論」、「新・新貿易論」、「新・新・新貿易論」の知見を契約理論の枠組みで統合しようとする試み(Antras and Helpman 2004; Antras and Chor 2013 等)においても大きな理論的進展が見られた。しかし、これらの進展から得られる知見、特に従来の貿易論より説明力の高い GVC の概念(例えば付加価値貿易、企業内貿易、業務の貿易、要素所得貿易等)は、米中貿易摩擦のように政策ニーズ面でも非常に関心の高い実証分析の分野ではまだ十分に認識されず、特に CGE 分析における適用・検証がかなり遅れているのが現状と言える。

2. 研究の目的

本研究の目的は米中貿易摩擦の動機と構造を GVC の視点から一元化して整理し、その所得・貿易・雇用・環境に与える影響を、GVC の主役である多国籍企業の活動を明示的に考慮した空間 CGE モデル・環境 ICIO モデル・計量モデルを用いて分析し、米中のみならず、日本を含む第三国の関心にも答える形での政策指針及び今後の国際ガバナンスの在り方を考察し、示唆を得ることである。

3. 研究の方法

研究方法として、GVC 分野と地政学分野の最新の論文レビューを行い、米中貿易摩擦の地政学的ロジックと要因を明らかにした。従来の分析と異なり、本研究では OECD の AMNE(Activity of Multinational Enterprises) 2019 データベースを用いて企業の異質性情報(多国籍企業と国内企業と区別しながら)を有する国際産業連関(ICIO)表を利用して、国・企業の境界線を跨る貿易を GVC 上の価値創造プロセスごとに分解し、米中をハブとする GVC の構造変動の可視化を行った。関税引上げ等に代表される米中貿易摩擦がグローバル経済に与える影響を分析するため、空間 CGE モデルをベースに、新たに企業の異質性を明示的に考慮した定式化と複数回国境を跨る中間財貿易に代表される GVC 構造を組み込み、従来の国・産業・商品レベルの影響分析に加え、GVC 上の貿易・投資ルートごとに、異質性を持つ企業レベル(同質企業の集合体)でのシミュレーション分析を行った。これにより米中貿易摩擦が所得・貿易・雇用・環境へ及ぼす影響を明らかにすることができた。GVC ルートごとの要因分解モデルとグラビティモデルを利用し、米中間の GVC 上の雇用機会の Transfer 及びその決定要因を分析した。10 ベースの GVC 分析ツール、ネットワーク分析ツールを利用して、米中貿易摩擦の影響分析結果の可視化も可能にし、貿易摩擦の当事者のみではなく、GVC の上・下流に位置する国、異なる所有形態の企業(地場企業と多国籍企業)への影響も分析した。

4. 研究成果

米中貿易摩擦に関する論文レビューを行い、COVID-19 と相まって、米中関係は更に悪化し、この点も留意し、GVC の観点から米中貿易摩擦の経緯について表 1 に示されるような三段階に分け、また米中貿易摩擦の本質・地政学的なロジックについて、表 2 に示すように研究を展開した。成果の一部は『論考』(東京財団政策研究所)に掲載された。

表 1 . グローバル・バリュー・チェーン上の米中関係の三段階

段階	タイミング	GVC 上の米中関係
一	2001 年の中国の WTO 加盟 ~ 2008 年の世界金融危機勃発	協調 > 競争
二	2009 年のオバマ政権発足 ~ 2017 年のトランプ政権発足まで	競争 > 協調
三	2017 年のトランプ政権発足 ~ ポストコロナ時代へ	対立 > 競争 > 協調

表2 . 米中対立の背後にある両者の矛盾点の分析

	中国	米国
1、発展途上国ステータス	WTO等の現行システムの中で途上国ステータスを堅持する	これは到底納得できず、WTO改革を強く主張する
2、知財・技術移転	「後進国の先進性」と「市場を以て技術と交換する」の正当性を訴える	米国の国益を損なう「知的財産権の窃盗」と「強制的な技術移転」に当たる
3、国有企業	国有企業を主力とする国家主導の産業政策は経済発展に必要不可欠だと主張	国有企業の不透明性を批判し、あるべきは公正かつ自由な市場競争だと主張する
4、個人情報	ビッグデータ収集・蓄積・分析に対し、その管理が国家主導	ビッグデータ収集・蓄積・分析に対し、その管理が企業主導

多国籍企業の生産関数、海外直接投資活動を考慮した国際産業連関モデルを開発し、従来の付加価値貿易を更に進化させ、要素所得貿易を提示し、米中の貿易関係のみではなく、比較優位も再評価した。主な結論として、従来の税関統計及び付加価値貿易に基づくGVC上の中国の価値創造力の過大評価、米国や日本の価値創造力の過小評価が生じ、要素所得貿易に基づく指標の有効性が検証された。関連成果は2021年IDE Discussion Paperに掲載され、WTOが刊行したGVC報告書2021年版に引用され、China Economic Reviewにも掲載された。GVC構造を明示的に考慮した応用一般均衡モデルを構築し、それを米中貿易摩擦の分析に適用し、GVC参加者の利得を貿易ルートごとに示した。主な結論として伝統的な貿易（最終財貿易）と単純なGVC貿易（国境を1回跨る中間財貿易）に関して、米中のGDPがマイナス影響を受けてしかもマグニチュードは甚大である。ただし、その他の国・地域において、プラスの影響を受ける。特に、EU、日本、メキシコ、カナダ、アセアンといった中国の対米輸出の競争相手は、米中間の関税障壁の上昇、輸出コントロールの強化による代替効果で、漁夫の利を得ていることがわかる。米国の対中制裁は中国の価値創造へのインパクトは第三国経由の中間財貿易（複雑なGVCルート）によりかなり軽減されることも分かった。成果は2022年のIDE Discussion Paperに掲載され、WTOが刊行したGVC報告書2023年版のバックグラウンドペーパーにも選ばれた。

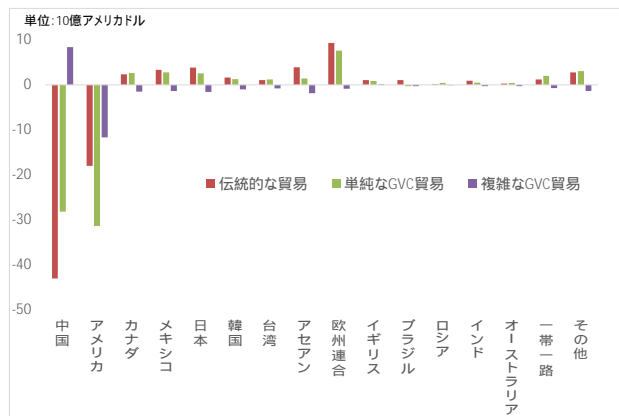


図1 米中貿易戦によるGVCルートごとの付加価値への影響

GVC上の生産者・消費者行動を同時に扱える二酸化炭素排出責任分担に関する新たなアルゴリズムを開発した。当該アルゴリズムは経済学と環境学を融合させたもので、既存の手法を大幅に改善し、OECDの最新のデータに適用した実証分析は2023年のCell 姉妹紙のOne Earthに掲載された。結論として、中国などの新興国の排出責任は2000年から急成長してきて、2012年に先進国を上回ったことがわかった。成果は今後の気候変動交渉、気候基金の設置及び炭素国境調整メカニズムの在り方などにとって有益な参考になると期待される。

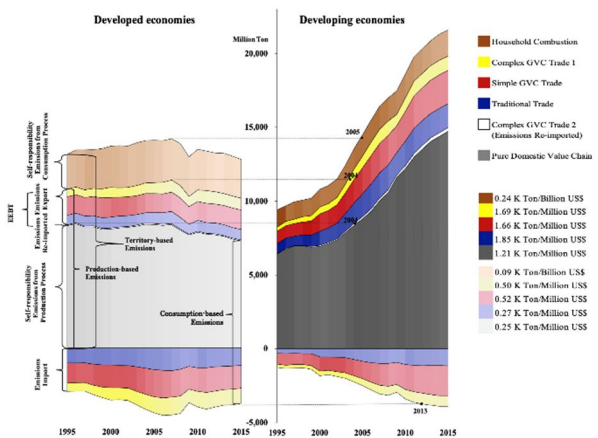


図2 GVCルートごと排出責任

他のGVCサブモデルによる成果として1)多国籍企業と国内企業を明示的に区別したGVCベースのネットワーク分析を行い、企業コントロールの視点から米中貿易戦前後のGVC構造変動の可視化ができた。成果は2023年の国連UNCTADの査読付き雑誌Transnational Corporationsに掲載された。2)米中の関係悪化による経済影響、エネルギー需給バランスの変化を分析し、成果はWTOなどが刊行したGVC報告書2023年版にて掲載された。3)企業の異質性情報を有する大規模中国省間産業連関データの構築にも協力し、成果はNature 姉妹紙のScientific Dataにて公開された。4)各国に立地する多国籍企業の情報を有するOECD国際産業連関表に基づくGVC上でのエネルギーと二酸化炭素の発生・移転・吸収を追跡し、国際炭素税の実施による多国籍企業のGVC上の潜在的環境コストの変化を分析した。成果とした論文は国際誌Ecological Economicsなどに掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 12件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Meng Bo, Liu Yu, Gao Yuning, Li Meng, Wang Zhi, Xue Jinjun, Andrew Robbie, Feng Kuishuang, Qi Ye, Sun Yongping, Sun Huaping, Wang Keying	4. 巻 6
2. 論文標題 Developing countries' responsibilities for CO2 emissions in value chains are larger and growing faster than those of developed countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 One Earth	6. 最初と最後の頁 167 ~ 181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.oneear.2023.01.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Li Meng, Gao Yuning, Meng Bo, Meng Jing	4. 巻 208
2. 論文標題 Tracing embodied energy use through global value chains: Channel decomposition and analysis of influential factors	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ecological Economics	6. 最初と最後の頁 107766 ~ 107766
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecolecon.2023.107766	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Li Meng, Meng Bo, Gao Yuning, Guilhoto Joaquim J.M., Wang Keying, Geng Yong	4. 巻 190
2. 論文標題 Material footprints in global value chains with consideration of multinational enterprises	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Resources, Conservation and Recycling	6. 最初と最後の頁 106828 ~ 106828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.resconrec.2022.106828	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Meng Bo, Gao Yuning, Zhang Tao, Ye Jiabai	4. 巻 851
2. 論文標題 The US-China Relations and the Impact of the US-China Trade War: Global Value Chains Analyses	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1~27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Li Meng, Meng Bo, Gao Yuning, Wang Zhi, Zhang Yaxiong, Sun Yongping	4. 巻 2
2. 論文標題 Tracing CO2 emissions in global value chains: Multinationals vs. domestically-owned firms	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainable Global Supply Chains Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Li Meng, Gao Yuning, Meng Bo, Uno Kimiko	4. 巻 893
2. 論文標題 Job transfers along global value chains and their determinants	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gao Yuning, Meng Bo, Suder Gabriele, Ye Jiabai	4. 巻 30
2. 論文標題 Making global value chains visible: Transnational corporations versus domestically owned firms	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Transnational corporations	6. 最初と最後の頁 1 ~ 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18356/2076099x-30-1-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Meng Bo, Gao Yuning, Ye Jiabai, Zhang Meichen, Xing Yuqing	4. 巻 73
2. 論文標題 Trade in factor income and the US-China trade balance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 China Economic Review	6. 最初と最後の頁 101792 ~ 101792
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chieco.2022.101792	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Suder Gabriele, Meng Bo, Gao Yuning, Ye Jiabai	4. 巻 825
2. 論文標題 Who dominates global value chains? multinationals vs domestic firms	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Meng Bo, Gao Yuning, Ye Jiabai, Zhang Meichen, Xing Yuqing	4. 巻 819
2. 論文標題 Trade in factor income and the US-China trade balance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Huo Jingwen, Meng Jing, Zhang Zengkai, Gao Yuning, Zheng Heran, Coffman D'Maris, Xue Jinjun, Li Yuan, Guan Dabo	4. 巻 4
2. 論文標題 Drivers of fluctuating embodied carbon emissions in international services trade	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 One Earth	6. 最初と最後の頁 1322 ~ 1332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.oneear.2021.08.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 孟渤	4. 巻 ID3499
2. 論文標題 ポストコロナ時代の米中関係と日本に求められる政策対応 グローバル・バリュー・チェーンの視点から (上篇)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京財団政策研究所『論考』	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孟渤	4. 巻 ID3501
2. 論文標題 ポストコロナ時代の米中関係と日本に求められる政策対応 グローバル・バリュー・チェーンの視点から (下篇)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京財団政策研究所『論考』	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yan Yunfeng, Li Xiyuan, Wang Ran, Meng Bo, Zhao Zhongxiu, Li Xuemeng	4. 巻 224
2. 論文標題 Visible carbon emissions vs. invisible value-added: Re-evaluating the emissions responsibility of multinational enterprises in global value chains	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Ecological Economics	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecolecon.2024.108262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Xue Jinjun Xue, Renouf Yves, Deng Youyi, Shi Xunpeng, Sun Kejuan, Sun Qian	4. 巻 2023
2. 論文標題 Toward a Secure and Resilient Energy Supply Chain	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Global Value Chain Development Report 2023	6. 最初と最後の頁 90-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 14件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 Meng Bo
2. 発表標題 Making Global Value Chains Visible:Trade in Factor-Income and Its Applications
3. 学会等名 Global Value-Chain Training and Research Workshop (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 グローバルバリューチェーンからみる米中競合関係
3. 学会等名 中国社会保障基金会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 米中の地政学的競合関係からみる人民元国際化
3. 学会等名 公益財団法人東京財団政策研究所（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇野公子
2. 発表標題 Global Value Chains and International Labor Transfers
3. 学会等名 IDE Advanced School GVC seminar（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 薛進軍
2. 発表標題 Firm's position in global value chains and its impact on pollutant emissions: evidence from China's manufacturing firms
3. 学会等名 WTO Global Value Chain Development Report 2023 International Workshop（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 薛進軍
2. 発表標題 The Impact of Russian-Ukrainian War on Energy Supply Chains and Geopolitics
3. 学会等名 WTO Global Value Chain Development Report 2023 International Workshop (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 Trade in Factor-Income and the US-China Trade Balance
3. 学会等名 環太平洋産業連関分析学会第32回(2021年度)全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 Tracing CO2 Emissions in Global Value Chains: Multinationals vs. Domestically-owned Firms
3. 学会等名 GIGA international workshop on green supply chain (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 薛進軍
2. 発表標題 Risk and Economic Security Issues in Global Supply Chains
3. 学会等名 第32回 ERC・キタン国際学術シンポジウム「ポストコロナ時代のグローバル・サプライチェーン再建」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 Trade in Factor-Income and the US-China Trade Balance
3. 学会等名 Chapter Authors' Workshop for the Global Value Chain Development Report 2020 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 The Topology of Global Value Chains
3. 学会等名 APEC supply chain resilience workshop (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 Gains, Positions, Interdependency of Countries in Global Value Chains
3. 学会等名 Sixth meeting of the OECD Expert Group on Extended Supply and Use Tables (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 IOT with Firm Heterogeneity: Some Cases for China and Japan
3. 学会等名 Fourth OECD Regional-Global TiVA Initiatives Expert Meeting (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 コロナ後の世界経済と変容するグローバル・バリューチェーン (GVC)
3. 学会等名 国際学術シンポジウム「ポストコロナ時代の日中経済協力」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 グローバルバリューチェーン：多国籍企業対国内企業
3. 学会等名 名古屋大学課題設定型ワークショップ発表(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 薛進軍
2. 発表標題 A Flying Geese Model for the New Globalization and Future Energy
3. 学会等名 Global Ph.D. Open Course: The Economics of Energy and Climate Change (sponsored by Malardalen University, Sweden)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 薛進軍
2. 発表標題 Globalization, Liberalization, International Trade and Carbon Emissions
3. 学会等名 Global Ph.D. Open Course: The Economics of Energy and Climate Change (sponsored by Malardalen University, Sweden)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 孟渤
2. 発表標題 Interdisciplinary Researches on Global Value Chains: Smile Curves, Network Topology and Climate Change
3. 学会等名 Global Ph.D. Open Course: The Economics of Energy and Climate Change (sponsored by Malardalen University, Sweden) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇野公子・安藤朝夫
2. 発表標題 Job Transfers and their Determinants along Global Value Chains
3. 学会等名 World Bank and IMF internal seminar
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安藤 朝夫 (Ando Asao) (80159524)	東北大学・情報科学研究科・名誉教授 (11301)	
研究分担者	宇野 公子 (Uno Kimiko) (80558106)	学習院女子大学・国際文化交流学部・客員研究員 (32699)	
研究分担者	薛 進軍 (Xue Jinjun) (40262399)	名古屋大学・経済学研究科・特任教授 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------